

平成27年度 学校評価総括表 伊丹市立池尻小学校

教育目標		『すべての子どもを幸せに』～豊かな心を持ち、たくましく生きる児童の育成～						
重点目標		(1)生涯学習の基礎となる確かな学力を育てる。(2)感性豊かで思いやりのある児童を育てる。(3)たくましく生きるための健康と体力を育てる。						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	基礎基本の徹底と授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的基本的な知識技能を習得させる。</li> <li>・授業力の向上と授業改善をめざして校内研修会を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字や計算などの小テストを実施する。</li> <li>・校内研修として、すべての教員が年1回以上授業公開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テストを月4回以上行う。</li> <li>・すべての教員が年1回以上授業を公開する。</li> <li>・児童アンケートにおいて「先生は教え方に色々工夫している」との回答が90%以上になる。</li> <li>・児童アンケートにおいて「授業はわかりやすく楽しい」との回答が90%以上になる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ月4回以上行い、習得の確認ができた。</li> <li>・今年度は、市指定の研究発表会があり、さらにスキルを高めることができた。</li> <li>・すべての教員が年1回以上授業を公開し、事後研でさらに深めることができた。</li> <li>・児童アンケートにおいて「先生は教え方に色々工夫している」との回答では、Aが82%、Bが16%で、合計98%になった。</li> <li>・児童アンケートにおいて「授業はわかりやすく楽しい」との回答では、Aが63%、Bが31%で、合計94%となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もさらに授業力の向上と授業改善を目指し、教材研究をする。</li> </ul>	児童アンケートの満足度が高いのは、学力向上の取り組みが充実しているからだと思う。学力向上で自信を持った児童の育成がみられた。
	学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかる授業をすることにより学習意欲を向上させ、達成感を味わわせる。</li> <li>・読書活動を充実させ、自ら学び探求する心を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題や課題を最後までやりきらせるよう支援する。</li> <li>・全校一斉の朝読書の時間を週3回実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の提出率が90%以上になる。</li> <li>・1人1か月低学年20冊・高学年5冊以上の読書数を達成する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の提出は、各クラスのほぼ決まった児童が未提出となっている。全体としては、90%以上達成している。</li> <li>・朝読書の習慣が定着してきており、静かにじっくり読書ができるようになってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題がなかなか提出できない児童については、家庭に協力をお願いしたり、学校で可能な限りやりきらせる。</li> <li>・生活・学習ふり返りカードで、家庭学習の習慣をつけていく。</li> <li>・図書時間に本を借りたり、朝読書をする時間を確保する。</li> <li>・学習の合間を利用して本を読む習慣をつける。</li> <li>・学習の定着度が悪い児童への、放課後学習を充実させる。</li> </ul>	読書好きの児童が育っている。家庭との連携で尚一層充実をめざしてほしい。
	特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた支援計画を立て適切に実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が必要とする支援を理解し、共通理解しながら支援をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケース会議を月1回行い適切な対応や支援をする。</li> <li>・校内研修を年に2回以上行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段から学年会などで児童の実態について情報交換し、ケース会議で話し合うべき事例をあげることができた。ケース会議を月1回行い、実態把握と今後の対応について話し合うことができた。</li> <li>・校内研修を年度初めと年度末の2回行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからもさらに深く児童を理解し、実態に即した対応や支援に努める。</li> <li>・ユニバーサルデザインの授業づくりについて研究し、困り感を持っている児童への適切な支援を行う。</li> </ul>	落ち着いた学習環境を整えることで情緒が安定することにつながる。継続した取り組みができればよいと思う。
	子どもの問題行動への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題行動に対する指導体制を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童を理解し、指導の徹底を図る。</li> <li>・関係機関と密に連絡を取り相談する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修を年に2回以上行う。</li> <li>・児童アンケートにおいて「自分を大切にすることや他の人への思いやりについて教えてもらっている」との回答が85%以上になる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段から学年会などで児童の実態について情報交換し、児童の理解と指導の徹底を図った。問題行動について学年と生活指導が一体となり、対応できた。</li> <li>・児童アンケートにおいて、「自分を大切にすることや他の人への思いやりについて教えてもらっている」との回答では、Aが64%、Bが29%となった。</li> <li>・保護者アンケートの記述欄において、思いやりの気持ちや協調性が育ってきたという意見が多く見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからも児童の実態把握に努め、きめ細かく対応していく。</li> </ul>	児童の問題行動や課題について、情報を共有して取り組む事はよいことである。保護者、地域住民が気づいたときに声を掛け合うなどみんなで育てる意識が大切である。

豊かな心・健やかな体	健康教育の充実	・児童の体力の向上を図る	・授業で、各学年に応じた運動プログラムを取り入れる。 ・全校長縄大会を実施する。	・教職員アンケートにおいて「学年に応じた運動プログラムを取り入れている」との回答が85%以上になる。 ・全校長縄大会を年3回実施する。	B	・「学年に応じた運動プログラムを取り入れている」との回答が86%となった。 ・長縄記録を伸ばそうと、運動場で業間休みに練習する姿が見られた。 ・休み時間に外遊びをする児童が減っている。	・各学年に応じた運動プログラムをより具体的で簡単な内容にし、研修等で紹介し合う。 ・年間通して業間休みに外で活動できるような運動や遊びを体育等の時間に紹介する。 ・ロードレース・陸上大会・いたっボールなどへの参加を促し、運動への意欲づけを講じる。	学校の積極的な声かけにより、様々な体験ができています。外遊びが減ると体力も低下する。できれば遊びの体験が増加することを望む。
	健全な食生活の推進	・食生活に関心を持ち、健康に生活しようとする児童を育成する。	・食育を給食の時間や授業に於いて推進する。	・児童アンケートにおいて「毎朝朝食を食べている」との回答が90%以上になる。 ・給食の残食がなるべくゼロになるようにする。	A	・児童アンケートにおいて、「毎朝朝食を食べている」との回答では、Aが85%、Bが9%で合計94%となった。 ・食べ物が増え、自分の健康につながっていることを意識し、栄養バランスに気をつけて給食を残さず食べようとする児童が増えた。	・給食の時間に、給食センターからのプリントや学校放送を利用したり、授業で食事や栄養について取り扱ったりし、より食に対する関心を深めていく。 ・クラス全体で残食0を目指していく。	朝、元気にあいさつができない児童は朝食も食べていないのではないかと。保護者の協力が不可欠である。
開かれ信頼される学校園	学校情報の発信	積極的に学校情報を発信する。	・学校だよりを発行し、地域にも配布する。 ・ホームページにより学校の情報を積極的に発信する。 ・マナーや生活のきまりを学校だよりに月目標として掲載する。	・学校だよりを月1回以上発行する。 ・ホームページを月1回以上更新する。 ・保護者アンケートにおいて「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」との回答が90%以上になる。 ・保護者アンケートにおいて「学校は、保護者の願いに答えている。」との回答が90%以上になる	A	・学校だよりは月1回以上発行された。 ・ホームページで学校の様子を毎日知らせることができた。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」との回答では、Aが47%、Bが50%となった。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は、保護者の願いに答えている。」との回答では、Aが36%、Bが58%となった。	・これからも積極的に学校の情報を発信していく。 ・学年便り等で生活振り返り習慣の実態を公表したり良い取り組みや課題を紹介したりして、家庭でも工夫改善策が講じられるようにする。	様々な情報を提供し、共有化を図っていくことが児童の育成につながる。積極的に情報発信をすることが望ましい。

**学校関係者評価総括**  
 学校の努力で児童の落ち着きが見られる。自信と誇りを持った児童が多くなった。その結果、積極的に地域の行事に参加し自ら進んで手伝う場面がみられるのも嬉しい。人のために役立つ人になりたいと思う児童が多くなっている。先生達の児童への声かけも丁寧で落ち着いている。児童は保護者の願いに応えるべく、気持ちにより添った指導が尚一層できるよう頑張って取り組んでほしい。

**次年度に向けた重点的な改善点**  
 家庭の教育力向上と教職員のスキルアップを図るなど尚一層充実した取り組みを行い継続発展できるよう一丸となって取り組む。

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った